

第2回 うるま市まち・ひと・しごと創生総合戦略有識者会議 議事録

日 時	令和2年2月19日(水) 13時00分～15時00分
場 所	うるま市役所 本庁東棟2階大会議室
議事項目	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 確認事項 <ol style="list-style-type: none"> (1) 第1回有識者会議議事録の確認について (2) 第1回有識者会議議事録での質疑・意見・要望等に対する回答について 3. 説明事項 <ol style="list-style-type: none"> (1) 市民アンケート調査結果の報告について (2) うるま市人口ビジョンの改訂について (3) 第2次うるま市まち・ひと・しごと創生総合戦略の施策体系案について 4. 連絡事項 5. 閉会
会議資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料—1 市民アンケート調査報告概要 ・ 資料—2 うるま市人口ビジョン改訂版案 ・ 資料—3 第2次うるま市まち・ひと・しごと創生総合戦略(施策体系案) ・ 参考資料—1 第2次総合戦略具体的事業一覧 ・ 追加資料—1 第1回有識者会議議事録 ・ 追加資料—2 人口ビジョンの現状分析の追加について ・ 追加資料—3 産業基盤整備計画基本計画概要 ・ 追加資料—4 島しょ地域振興推進委員会について

○出席者

	分野	氏名	団体	出欠
委 員	学識	瀬口 浩一	国立大学法人琉球大学 国際地域創造学部 教授	○
	産業	新垣 壮大	うるま市商工会 会長	○
	産業	中村 薫	うるま市観光物産協会 副理事長	○
	労働	赤嶺 久美	一般社団法人ジョブブリッジ研究所 代表理事	×
	報道	伊波 良和	株式会社 FM うるま 取締役会長	○
	市民公募	高里 彰吾		○
	市民公募	田中 啓介		×
	市民公募	玉栄 章宏		○
	子育て	外間 ケイ子	社会福祉法人かなさ福祉会 公私連携幼保連 携型認定こども園 へしきや・かなさこども 園 園長	○
	自治会	玉城 正則	うるま市自自会長連絡協議会 伊計自治会 会長	○
	産業	阿嘉 良勝	沖縄県農業協同組合具志川支店 支店長	×
	金融	大城 盛直	沖縄振興開発金融公庫中部支店 支店長	○
行政	大田 定	内閣府沖縄総合御事務局 経済産業部企画振 興課 課長	○	
事務局	企画政策課	金城 和明	課長	
	企画政策課	宮城 哲博	係長	
	企画政策課	伊佐 義永	主任主事	
	企画政策課	盛根 淳二	主任主事	

議 事 内 容

1. 開会

2. 確認事項

(1) 第1回有識者会議議事録の確認について

資料説明（事務局）

質疑応答

- ・ 意見なし

(2) 第1回有識者会議議事録での質疑・意見・要望等に対する回答について

資料説明（事務局）

質疑応答

- ・ 産業基盤整備計画基本計画、島しょ地域振興推進委員会について、中間報告として期待していた内容ではない。幹事会や検討委員会で議論している内容が反映されているか、次回3月下旬の本会議で確認したい。KPIも並行して検討したい。そのため、議事録・概要版等の資料を次回の本会議前に送付していただきたい。（委員）
- ・ 基本計画は、担当課に提供可否を確認する。島しょ地域振興推進委員会については提供する。（事務局）

3. 説明事項

(1) 市民アンケート調査結果の報告について

資料説明（事務局）

質疑応答

- ・ 問19の加重平均値について、「分からない・無回答」も分母に含まれているか。（委員）
- ・ 含まれている。（事務局）
- ・ 問22について、島しょ地域を活性化させるには、人を住まわせることが自治会としては重要。島が好きの方は一度島の外に出ても地域の魅力を感じて帰ってくる。マンションやアパートが建っても自治会に加入しない現状であり、活性化されない。地域を活性化させることが課題。企業が出来ても通勤ではなく、島に住んでもらいたい。魅力を感じて子育てをしてもらいたい。30年間伊計島にいて感じたことである。（委員）
- ・ 問22について、出会いの場やワーキングスペースといった今回追加した選択肢について、回答者が独身か結婚されている方が気になる。市として島しょ地域を盛り上げる方向性と住んでいる方とのギャップがあるのではないか。住んでいる人のニーズを含めて、ひとの流れをつくる着眼があると良い。（委員）
- ・ 子育てに関するアンケート結果についても、専門分野の方の見解を聞きたい。（委員）
- ・ アンケートは、全市民が対象か。（委員）
- ・ 島しょ地域500人、保育園保護者、それ以外3000名は18歳以上を無作為抽出している。（事務局）
- ・ 島しょ地域、子育てに関心のある人の割合は多いということか。（委員）
- ・ 地方創生に関するアンケートのため、関係する人の意見を多めに聞くようにした。（事務局）
- ・ 問22の回答数が、前回と比べ半数となっている。（委員）
- ・ 前は島しょ地域へ4000通のうち1000通、今回は500通に絞ったため母数が半分になっている。（事務局）
- ・ 問13-2について、20代の「経済力がないから」という回答は42.4%から29.7%へと減少とあるが、減少したのか、30代に繰り上がったのか。就職氷河期の方が30歳代になっているのではないか。（委員）
- ・ 年齢別についても、今後詳細に分析する。（事務局）
- ・ 前回調査と比較可能なものなのか。比較可能でなければ、コントロールして調整する必要がある。（委員）
- ・ アンケート調査は、うるま市独自の設問か。県全体など比較対象はあるか。（委員）
- ・ うるま市独自であるが、前回調査との比較を意識している。新たな設問は今後のニーズ調査である。他市町村ではなく、過去との比較を意識している。（事務局）

(2) うるま市人口ビジョンの改訂について

資料説明（事務局）

質疑応答

- ・ 前回策定時も委員を務めていたため、前回人口ビジョンからの変化を中心に見ている。産業別就業人口が島しょ地域編にないため入れてほしい。（委員）

- ・ 社人研推計のウ前回の人口ビジョンとの比較についても、島しょ地域編に入れていただきたい（委員）
- ・ 産業別就業人口は、島しょ地域の分析は難しい。島しょ地域の前回人口ビジョンとの比較については追加する。（事務局）
- ・ 了解した。前回との比較は入れていただきたい。（委員）
- ・ 第1次と第2次との相違点について、人口現状分析、アンケート、人口将来展望、目指すべき将来像、施策体系、KPIの6つの視点で総括いただきたい。（委員）
- ・ 検討させていただく（事務局）
- ・ 前回推計の精度確認をした方が良いのではないかと。2015年の実績値と比較すると、予測よりも実績値が200人程度少ない。一方、2020年の予測値は前回より多くなっている。仮定値が前回より緩いと思うが、どう考えたらよいか。（委員）
- ・ 前提を確認し、分析する。（事務局）

（3）第2次うるま市まち・ひと・しごと創生総合戦略の施策体系案について

資料説明（事務局）

質疑応答

- ・ 第2次で事業が増えていることはすごいと思う。追加された事業の立ち上げに向けた所管課の動きを知りたい、専門分野の意見も聞いているのか。（委員）
- ・ 専門家の意見を聞くというよりは、地域のニーズを踏まえて事業化されている。（事務局）
- ・ 総合戦略の4章も今後追加するのか。（委員）
- ・ 追加する。（事務局）
- ・ 先ほど、第1次との比較の観点を6つ挙げたが、施策体系とKPIは整理されているので、今のままでも十分だと考える。（委員）
- ・ 承知した。（事務局）
- ・ 産業基盤整備計画基本計画の進捗を反映したい。基本構想の6ゾーンについて、今年は石川と仲嶺が進んでいるが、それ以外のゾーンも3か年で計画を立てるのか。来年はどこゾーンか。また、総合計画の見直しはいつか。（委員）
- ・ 総合計画の後期基本計画は令和3年度からであり、来年度から策定を開始する。（事務局）
- ・ 総合戦略も5年後の見直しではなく、総合計画の内容も中間で盛り込んでいただきたい。（委員）
- ・ 産業基盤整備計画基本計画は、ゾーンごとに短期・中期・長期で実施する事業を洗い出ししている。次年度以降は、津堅の取組みを検討している。ゾーンごとではなく、全体の中でどの事業を実施するか検討する。（事務局）
- ・ 今年の計画を見て、4つのゾーンが遅れているのではないかと感じるため、3か年で終わらせてほしい。（委員）
- ・ 総合計画については、基本構想は10年計画のため、目標・施策体系は変わらない。総合計画にあわせて総合戦略を策定している。（事務局）
- ・ 総合計画の内容は、現段階で総合戦略に入っているということか。（委員）
- ・ その通りである。（事務局）
- ・ 島しょ地振興域推進委員に、自治会は入っているか。（委員）
- ・ 本委員会は、庁内委員会である。（事務局）
- ・ KPIに経済効果を入れていただきたい。観光業は経済効果がどれだけ上がっているかが重要であるが、これまで継続的に計測されていない。観光振興ビジョンにはあるが、アクションが起きていない。沖縄県としても観光をリーディング産業としているが、地元にはお金が落ちていないという実態もある。実態を示した上で、対策を進めたい。難しいと思うが、経済効果を追加することを検討いただきたい。（委員）
- ・ 1-2-2 耕作放棄地については、島しょ地域の移住定住策として、耕作放棄地を提供してはどうか。1-3-1 地域ブランドの確立支援については、自治会で麦を作っており、1年目は麦のみ生産していたが、2年目からは製粉し、今後は製品化を考えており、そのためには機械などが必要でありサポートが必要。商品プロモーション事業でも麦をプロモーションしたい。また、めんそーれうるま！キャンプ・合宿事業では、野球場・サッカー場も整備してほしい。伊計のホテルも近ければ活用できる。自転車環境については、自動車と自転車の通行帯を分けてほしい。地域おこし協力隊受入事業については、地域力よりも自治力を高める内容にしてほしい、地域の人が動いてこそ活性化する。空き家対策については、石垣の修繕の助成をしてほしい。コワーキングスペース施設の整備については、島しょ地域の空き家を活用して仕事、ネット会議をしてもらいたい。浄化槽についても助成があるが、汲み取り費用が大変であり、アパート建設を断念した事例があるので、その辺りも検討してもらいたい。景観については、地域の意見を取り入れるべきである。昔は地域の要望から役所で施策をつくっていたが、今は逆のため住民に浸透しない、納得していない状況である。総合戦略に載せている事業を是非進めていただきたい

い。(委員)

- ・ 観光として、伊計島に歌碑をつくってほしい。うるま市内の書家に書いてもらう。観光産業だけでなく、地域の子ども、老人クラブなどとの協力、自治会との連携がないと上手くいかない(委員)
- ・ 農業について、ゆがふ製糖を訪ね、今後の運営について、継続的な話し合いを進めるとのことでやり取りを始めている。沖縄本島 26 市町村に要請書が行っている。耕作放棄地解消、担い手解消は、さとうきびについて追記してほしい。(委員)
- ・ 観光ビジョンには、推進体制が記載されている。新商品ブランド事業は、行政と商工会とタイアップした方がよい。事業の担当部局と協力する民間団体を記載してほしい。ビジョンだけ掲げて上手くいっていない時に、商工会が反省することもある。追記する検討をお願いしたい。(委員)

4. 連絡事項

- ・ 今回は、3月下旬に開催する。日程は別途連絡する。(事務局)

以上

a